

春スキー塩の道編

塩の道 小谷村コース

みやたすくむ

「つめなわら、おそくなつてしまっ  
ました」

と、笑顔で現れたのは神山淳子さん、  
神山さんの奥さんなのだ。これから塩の  
道と一緒に歩くことになっているのだ  
が、私は初心者で女性と話しをするのが  
あまり得意ではない。すこしばかり緊張  
していたのですが、この笑顔ですこし救  
われた気がした。神山さんのこの笑顔が  
終日続いていた。

五月三日、春スキーの変更バージョン  
で皆さんとは別行動です。私にとっては  
恒例の「塩の道・小谷コース」です。

燕が飛び、頬を撫でる風も何故か優し  
い。この時期になると決まって思い出す  
言葉があります。「賢いから何もささ  
あげられません、さわやかな五月の風と  
精いっぱい愛する心だけです、でも結婚  
してつづけますネ」「これはアフリカのリマ  
で、昔、東芝日曜劇場で森光子が言っ  
ていた台詞です。

さて、話が脱線してしまいましたが、  
今年は雪が多かったのか、山のふもとま  
で残雪があります。今回は小谷村の「塩

の道」を案内して下さいるボランティアの  
方と一緒にです。と言いつか、こちらからボ  
ランティアの方を見つけて御願いをし  
たのです。最初は知らなかったのです  
が、この方はすごい経歴の方で、今こ  
で書くと長くなってしまうので、い  
ずれの機会に紹介をしたいと思えます。

出発する前にまず案内して入れた所  
は、出発場所にもなっている「下里瀬」で、  
赤いテープが貼ってある所で、昔、小谷  
村の側に流れている姫川の崖崩れがあ  
って、川の水がせき止められて、この赤  
テープまで水があふれて、ほとんどの人  
家が水没したとの事。もう百年ほど前の  
事だそうだ。その高さは私の身長よりも  
高くあった。

歩き始めると、すぐに恵比寿人形が机  
の上に置かれてあり、その下に、「地域  
納税をたくさんしていただきありがとうございます  
と書いています」「と村長からの御礼状があ  
った。

ボランティアの方に聞くと、最近地域  
納税の方が増えて、とても潤っているこ  
のとの事。その証拠に塩の道コースの橋  
などもきれいに整備されていた。

今年の参加者は、お天気に恵まれ、休  
日も重なっていたのか、とても多くて山  
道なのに渋滞が多々起きていて、その渋  
滞に我慢できずに道をそれて、別の道を

通る人まで現れた。それにしても山道で  
の振る舞いの接待も、気のせいかなしく  
なっているような気がした。ボランティ  
アの人に聞くと、少子化と高齢になって  
きたため、なかなか今までのようにい  
なくなってきたとの事でした。

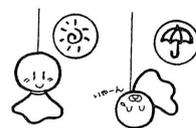
それから、ボランティアの方がこの花  
は〇〇〇、あつちの花は×××だと教え  
てくれるのですが、食べれる、食べれな  
い、の話だと理解するのだが、かつとも覚  
えない。すると見知らぬ人が後方で「見  
ても聞いても覚えられない山の花」と、  
言っていた。まさにその通りで、うまい事  
を言っただけ、感心したのだ。

静岡に戻っても、覚えているのは一つ  
か二つだった。それに比べると神山さん  
はしっかりと覚えていた。どうも私と頭の  
構造が違う事を理解した。私はこの人と  
張りの合つ事をこの時点であきらめた。勝  
てる見込みがないからだ。

この神山さんはいつも笑顔でいられ  
るのが不思議だった。気持ちも私と違っ  
たようだ。そしてボランティアの方も優し  
く接してくれて、「こちらの心を和ませて  
くれました。よく、この小谷村に来てく  
れたという気持ちににじみでている人  
だった。前にも書いた事がありますが、  
小谷村の人たちはあの映画、「三丁目の  
夕日」に出ているような人達で、昔、日

第37回総会

6月4日(日)アイセル21におい  
て、第37回総会が開かれました。  
総会は、参加者の賛同を得て  
無事終了しました。  
様子は、次号にて報告します。



本人はこうだったと思える人達、この小  
谷村に来ると、田舎に帰ったとか、昔育  
った家に戻ったような気がします。  
とにかく、心がホッとするので、来年  
も行へぞー！

☆「お遍路修行者」はううぞ。読んでね！

## お遍路修行者(その十)

みやた すゝむ

前にも報告した事があるのですが、巡礼をしている時は、あるお寺の参拝が終わると、次のお寺の電話番号を力一ナビに打ち込んで指令どりに目的地に向かうので、計画性もなければ、宿をどこにするのか決める事もなく、毎回行けるところまで行き、夕方になると宿を探す、まあ多少の前後はありますが、一応なんとか宿を見つけた事ができる。

それで、あまり愚痴は言いたくないのですが、二日目に泊まった宿はひどかった。宿の名前を言ってもいいのですが、この報告を読んでくださる“あなた”は多分行く事もないと思いますので、仮にB宿としておきましよう(最初A宿としたのですが、A宿は日本語の発音だと良い宿に連想しますので、B宿にしました)。

この宿は、泊まるだけで五五〇〇円。夕食も朝食もなし、ぶつう二食で五五〇〇円から六〇〇〇円くらいなので、だいぶ高い。こちらは、すべり込んで泊まりに行ったので、もうそこに決めるしかない。ここは一人一部屋でしたので、まあ寝るのには良かったのですが、近くのコンビニで夕食と朝食を用意をする、そして軽く飲むとけっこう

高くなる。

しかもこの宿は、川の土手の内側に建ててあるような構造で、この宿を支える柱が川の岸に建っている。窓をあけると、木とか笹竹が手の届くところに生えている。よくもまあこんな所に建築許可がおりたものだと思いに感心してしまった。おまけに宿の主人の不愛想なのが余計に腹が立ってくる。風呂も湯が出ずに、水を浴びて眠った。今こうして思い出しても虫々が走る。

三日目の宿は民宿で、ここはお寺にあったチラシで決めた所。宿の名前は“つよし”で、ご主人の名前から宿の名前を決めたとか。宿泊するのは私達だけでなく、近くの工場で働いている人もいた。出稼ぎの人達なのだ。この近くには宿のようなものがなく、結構な人達が居た。

この女将はきさくな人で、私達をねぎらうてくれ、心持の良い宿だった。昨日のB宿とは雲泥の差だ。夜は近くの食堂に行き、又そこで飲みながらB宿の悪態をついて、夜が更けてゆくと、酔いも深くなっていった。

四日目の宿も良い所だった。名前は“美咲旅館”。ここは別の所で仕出しの仕事もしているらしく、料理には結構手が込んでいた。

この日も外に食べに行くのだが、宿の人が居酒屋を紹介してくれ、そこに向かうのだが、すぐ近くという割りに二キロくらい歩いただろうか。でも地元料理もおいしく、食べ飲んだ。次

の日の朝食も食べきれないほどの量の副菜が出てきて、結構満足をした、良かった。

この宿に私は服を忘れてしまい、着払いで送ってもらった。大した服ではなかったのですが助かりました。もちろん御礼状は出しました。

もうお寺も八〇ヶ所近く参拝をしたので、あと数ヶ所となりましたが、同行をしてくれた鈴木さんが始めたばかりなので、一緒に又巡る事になりそうです。二巡目に入るお遍路とはこの様な事なのか。

でも、これが空海さんのお導きなのかもしれない。それならそれで空海さんの心に寄り添っていくのもいいだろう、と思えるこのごろです。

又行く事になります、御気持ちのある方は連絡をしてください。

以下次号



次回例会  
7月18日(土)  
アセル21  
6:30~

板のチェーンナップ!

7月16日(日)

今年も中野さん宅で  
午前10時ごろよりやります。  
みんな板をもって来てネ!



バーベキュー  
7月17日(月)祝

恒例のいつもの  
長尾川でやります!

集合:現地 10:00

買出し 9:00

会費:1000円(飲み物別)

担当:上田

(257-3204)